

---

# 過去からの下剋上

鎖帷子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

過去からの下剋上

### 【コード】

N0944Z

### 【作者名】

鎖帷子

### 【あらすじ】

織田家の子孫である男が20歳の誕生日に祖父から受け取った書物。

そこには彼の先祖である織田信長の抱える前代未聞の野望が記してあった。

その野望は日本全土を未曾有の大混乱へと陥れる……

## 序章

2027年 7月25日

今日、20歳の誕生日を迎えた。僕も一人前の大人になったわけだ。両親を数年前に亡くし、友達などほしいと思っただけのことない僕を唯一、毎年祝ってくれるのが祖父だ。

僕は祖父と殆ど会話をせずに夕食を終えた。食事中は微妙な空気が流れていたが、誰かと一緒に食事をできるのが嬉しかった。

食事を終えた後、祖父に誕生日プレゼントだと言われポロポロの書物を渡された。

祖父曰く、僕の家系に代々伝えられている代物なのだという。

本当は父が持っているべきなのだが、亡くなってからは祖父が預かっていたそうだ。

そのポロポロな書物の表紙には、擦れた字で『未来の織田家の者へ』と書かれていた。

その書物の内容に僕は驚愕した。そして、今日より僕の人生をただ一つの野望のために捧ぐと決意した。

2033年 5月12日

6年かけてやっと野望の達成へと一歩近づけた。

空間を捻じ曲げるによりほんの一瞬だが時間の逆行を可能にした。

ここからさらに、改良を加えていけば我が一族の野望を果たすための道具が完成するはずだ。

2041年 6月10日

出来た！ようやく出来た！！

実験や研究を始めて早14年経った。だが、野望を達成できるのだ  
つたら14年なんて短いものだ。

モルモットでの演習も成功してはいるが、人を試験対象にしたこと  
がないので不安要素は大きい。

しかし、失敗を恐れる心は必ず失敗を呼ぶ。僕はこの発明に名誉と  
誇りを持っている。

必ず成功する。いや、成功しか許されないのだ。研究を始めてから  
一切の人との交わりを断ち、太陽の光も浴びることはなくなった。  
人として生活することをあきらめた。もう僕のことを人として扱っ  
てくれるものはいないかもしれない。だが、そんなことすら厭わな  
い。

明日、僕は計画を実行するつもりだ。

わが祖先である織田信長の野望を成し遂げるために・・・！

## 第一章 過去から来るは絶望

2041年 6月18日 埼玉県某所。

一人の青年が、ソファーに寝転がりテレビを見ながらくつろいでいる。

彼の名前は末崎<sup>すえさき</sup>壮太<sup>そうた</sup>。県立高校に通っている、高校二年生で標準の高校生よりしばかり頭が悪い。

今日は平日なのだが、壮太の学校は開校記念日なのでこうしてダラダラとしていれる。

壮太にとってソファーの上でダラダラしていれるのは、これ以上ない最高の休日の過ごし方なのだ。

壮太が大きな欠伸を一つし終えたとほぼ同時に携帯電話の着信音が部屋に鳴り響いた。

壮太はかつたるそうに携帯を手に取り、誰からの着信か確認した。携帯のディスプレイには、服部<sup>はっとり</sup>忠志<sup>ただし</sup>と表示されていた。

忠志は、壮太と小学校、中学校とも同じで、クラスもずっと同じだった。

彼らは何をするも二人で行動し、互いに絶大な信頼関係を築いた。

新婚夫婦といわれ馬鹿にされたこともあったほどだ。中学校を卒業し、別々の高校に通っても彼らの関係は少しも変わらない。

「なんだよ、アホからか・・・」

壮太はポツリと呟いてから、電話に出た。

「なんだよ、暇人」

壮太はあきれた口調で言った。

「おい、電話してやったのになんだよってのはないだろー！感謝しろって！」

忠志は、笑いを交えながら言った。

「今から、壮太んち行きたいんだけどいいでしょ？」

「はあ？なんで俺が家にいると思うわけ？今日平日だぞ？」

「ダメか、いいかで答えるよ。」

相変わらず強情だ・・・壮太は苦笑いをするしかなかった。

「分かった、分かりました。いいよ。今日ちょうど開校記念日だし。」

「

壮太はあまり乗り気でなかったが承諾した。恐らく断っても家に乗り込んでくるだろう。

「んじゃ、おじやまします。」

そう告げて忠志は電話を一方的に切った。そしてその瞬間家のドアが開いた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0944z/>

---

過去からの下剋上

2011年12月3日18時01分発行